

# 地方空港における国際旅客の推移と現状



空港研究部 空港計画研究室 研究員 杉谷 愛 室長 丹生 清輝

(キーワード) 地方空港、国際化、国際航空旅客動態調査、経由空港、仁川国際空港

## 1. はじめに

地方自治体の誘致政策もあり、地方空港における国際定期航空路線や国際チャーター便の就航が進展している。一方、オープンスカイ（航空自由化）やLCC（格安航空会社）参入促進等の成長戦略の推進により、今後とも地方空港の国際化が進展することが予想される。

そこで、最近3年間（平成18～20年度）の国際航空旅客動態調査データを基に、国際航空（出国）旅客流動について経由空港のパターン別に推計・分析を行った。近年、旅客を韓国の仁川国際空港に奪いとられているとの一部指摘もあることから、ここでは仁川経由についての分析結果を紹介する。

## 2. 仁川空港経由から見た国際航空旅客流動

### (1) 地方から海外への流動

地方（三大都市圏以外の日本各地）から出発し、韓国以外の第三国を最終目的地とした旅客流動、具体的には図-1に示す地方発の2つの流動について比較分析を行った。我が国の地方空港から仁川経由で韓国以外の海外へ出国した旅客数は、平成18年度6.2万人、平成19年度6.4万人、平成20年度7.8万人と推計された。

これに対し、地方から成田・羽田・関空・中部のいずれかの空港に行き、仁川を経由せず第三国に出国した旅客数は、平成18年度539万人、平成19年度531万人、平成20年度563万人と推計された。仁川経由の比率は約1%と非常に小さい（図-2）。

### (2) 日本全体から海外への流動

日本から出国し、韓国以外の第三国を最終目的地とした2つの旅客流動について(1)と同様に比較分析を行った。日本のいずれかの空港から出国し、仁川を経由し韓国以外の海外へ出国した旅客

数は平成18年度23.4万人、平成19年度21.4万人、平成20年度24.3万人と推計された。

これに対し、日本のいずれかの空港から、仁川を経由せず第三国に出国した旅客数は、平成18年度2,010万人、平成19年度2,042万人、平成20年度1,900万人と推計された。仁川経由の比率は約1%と(1)の地方発同様、非常に小さい。

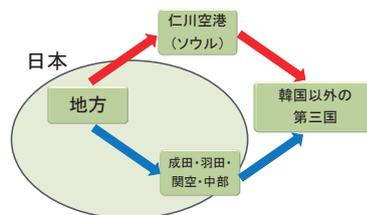


図-1 分析対象の国際旅客流動

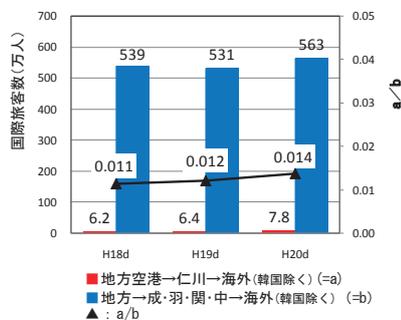


図-2 地方からの年間出国者数

## 3. 結果

日本から出国する国際航空旅客の流動状況について経由空港の視点からの分析例を紹介した。分析の結果、仁川を経由している旅客は、実はそれほど多くはないものの、地方から出発する出国旅客については、仁川経由の比率が徐々に増加傾向にあることがわかった。

本研究成果の詳細は、国総研究所資料No. 603「地方空港における国際路線・旅客の推移と現状」(<http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryoutnn/tnn0603.htm>)を参照されたい。